二人静

[謡本] 二人静 1冊 WA7- 082-001
国立国会図書館

中詞

是ハ三吉野勝手乃清おゝ仕へ
中老小さく作ざしても当社小をき
清神事横ゝ清座人中小も
正月七日ハ夜牙川よりの菜を
橋を神前まり来へ中はぞ日小
あひ阿さわ言は程小安ともに
中つ々か清見川へ清りし作

[謡本] 二人静 1冊 WA7- 082-002
国立国会図書館

[謡本] 二人静 1冊 WA7- 082-003
国立国会図書館

ツレ「いかなる人にてましますぞ　シテ「三吉野へ
帰り給はゞ宮(みや)信(?)や候ぞ
ツレ「帰りて候ふ　シテ「三吉野にてハ
社家乃人々ことに神職
申さんあまりにわらはが罪業乃程
いたはしく候へば一日経かいて
我跡とひてたびたまへ頼み候

候べく　ツレ「あらおそろし誰哉
御はやばやと帰りてさせ給へし
抑誰名をなのりとやらん疑ぞ
シテ「げに由おぼさばこそはいてもなく
疑ふ人あらば我が付かりぬるとに
げにやつゞりし名をも先顕乃は
通しばまひて見よくくとゝけ

[謡本] 二人静 1冊 WA7- 082-005
国立国会図書館

[謡本] 二人静 1冊 WA7- 082-006
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

[謡本] 二人静 1冊 WA7- 082-007
国立国会図書館

隠なき舞の上手なりしかは
義経まふては見給ひしあと
あまりに興に乗して給ひし
ツレ詞
かゝりし舞乃装束をこそ勝手
の宝蔵に納め志也
ツレ
なにとさうそ
ヤキ上カルヒ
扨舞乃装束は
袴は精好
ヲ
水干に
ヒ
世を秋の野乃萩摺し
ヤキ詞
是は

かし舞乃すかたとて宝蔵を
ひらき見給へはうたかふ所も
なく舞乃装束乃いろいろを目まて
とりいてゝ清まひらく静か舞
舞をも清舞も皆くはゝりて清るへし
ツレ上カルヒ
らん
実にあやかなしき着
ヤキ上カル
ふぬ心とてさもかなしき身

[謡本] 二人静 1冊 WA7- 082-009
国立国会図書館

花永宿うる下ふし長閑なら
さら夜あらしにもをぬ芳と
兼もちるぞ深ゐり一栄一栄ま落
あたわかなうな世とてまゐ此
山をおちてゐり 上天 菅清見恵新
天皇大伴乃王子小をそゞ祈て
ぼ山よふ見まよひ雪乃末信我

新竹ひ老南樹末乃宮祿乃宮游
西河乃游新ゝ音落申け落て我
なるハうへ流まわざ流よても
三吉野乃新其木信乃ハ船の雪
雨もたまらぬお思やさ新をと
さハりし我はる落夜の月ハ勝
まてなる足引乃山源三分建ひ

[謡本] 二人静 1冊 WA7- 082-010
国立国会図書館

りあはれきのふしもはきし落
そこは吉野の山こそ遊子
残月にゆきしなに身の上に
しら雪の峯を踏て見おろせは
惜めかの草の衣も雨なれて
さぞあらしおろし聖が山風に
ちは物ともこ遂年の聲やすまぬ

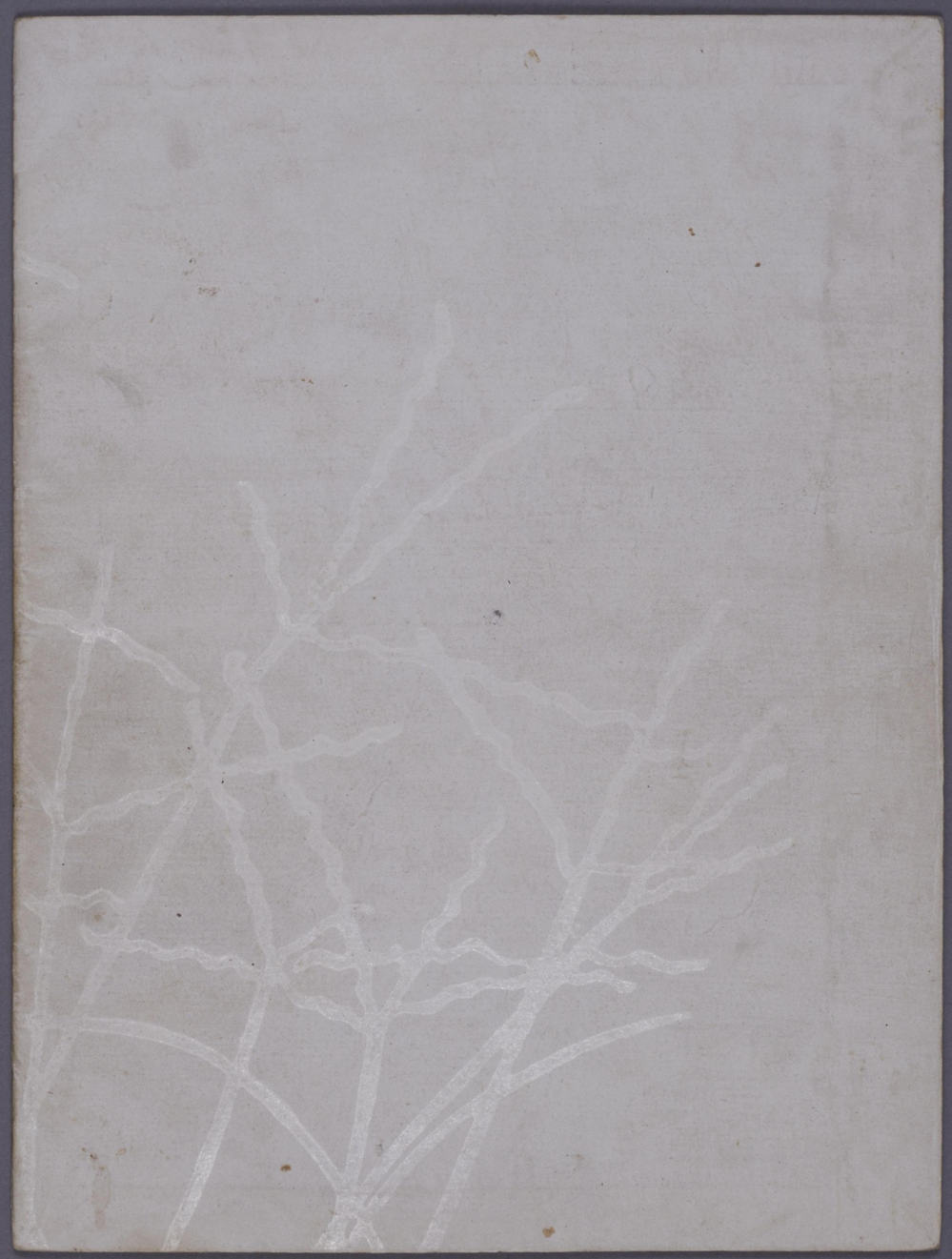
谷なの見ん三吉野の奥ふかき
急ぐは山路かうき世の見ならん
うのまし影しめし出さるる
静は兼ねて上手なれば、とくとく
あまりしのは心もとけぬ兼乃袖
返ゝもうらめしや着うらしき
時乃和哥ぞ早やしつゝ志清風

[謡本] 二人静 1冊 WA7- 082-011
国立国会図書館

国立国会図書館

[謡本] 二人静 1冊 WA7- 082-012

国立国会図書館



[謡本] 二人静 1冊 WA7- 082-013

国立国会図書館